

昔々、あるところにおじいさんとおばあさんがいました。

(中略)



...「きびだんごなんかいないよ。」

そういう桃太郎に

おばあさんは無理やりきびだんごを持たそうとしました。
べちゃあ。

きびだんごは桃太郎の腰のところにべっとりとついてしまいました。

桃太郎は苦勞してきびだんごを剥がし、綺麗にしました。

「おばあちゃん、困るよお。こんなことしちゃあ。」

(中略)

... お腰につけたきびだんご、ひとつ、私にくださいな。

「わんちゃん、きびだんごなんか持ってないよ、」

そう言って見たものの、桃太郎はやな予感がしました。恐る恐る自分の腰をみていると、

「わんちゃん、きびだんごなんか持ってないよ、」

そう言って見たものの、桃太郎はやな予感がしました。恐る恐る自分の腰をみていると、

べちゃあ

またきびだんごがべっとりとついていてではありませんか。
わんちゃんはきびだんごをすっかり舐めとってしまいました。

(中略)

「おさるさん、きびだんごなんか持ってないよ、」

さっきのぶんは自分でもよく拭いたのでもう残ってはい
ないはず。

「おさるさん、きびだんごなんか持ってないよ、」

さっきのぶんは自分でもよく拭いたのでもう残ってはい
はずです。

でも、桃太郎はやな予感がしました。恐る恐る自分の腰を
みてみると、

「おさるさん、きびだんごなんか持ってないよ、」

さっきのぶんは自分でもよく拭いたのでもう残ってはい
はずです。

でも、桃太郎はやな予感がしました。恐る恐る自分の腰を
みてみると、

....

「おさるさん、きびだんごなんか持ってないよ、」

さっきのぶんは自分でもよく拭いたのでもう残ってはい
はずです。

でも、桃太郎はやな予感がしました。恐る恐る自分の腰を
みてみると、

....

べちゃあ

またきびだんごがべっとりとついているではありませんか。

(中略)

「きじさん、きびだんごなんか持ってないよ、」

こんどは自信をもって言いました。何度も確認したからです。

「きじさん、きびだんごなんか持ってないよ、」

こんどは自信をもって言いました。何度も確認したからです。

....

「きじさん、きびだんごなんか持ってないよ、」

こんどは自信をもって言いました。何度も確認したからです。

....

でも、だんだんやな予感がしてきました。

「きじさん、きびだんごなんか持ってないよ、」

こんどは自信をもって言いました。何度も確認したからです。

....

でも、だんだんやな予感がしてきました。

....

「きじさん、きびだんごなんか持ってないよ、」

こんどは自信をもって言いました。何度も確認したからです。

....

でも、だんだんやな予感がしてきました。

....

....

「きじさん、きびだんごなんか持ってないよ、」

こんどは自信をもって言いました。何度も確認したからです。

....

でも、だんだんやな予感がしてきました。

....

....

べちゃあ

やっぱりきびだんごがべっとりとついているではありませんか。

(中略)



こうして桃太郎はおじいさんとおばあちゃんといっしょに
幸せに暮らしましたとさ。
めでたしめでたし。
(おしまい。)

素材は次のところからお借りしました。画像の著作権はそちらにありますので取り扱いにはご注意ください。

- ▶ 「桃太郎（ももたろう）のイラスト」

<http://kids.wanpug.com/illust121.html>